いつだって好奇心　手を伸ばせばそこに本

子どもの読書活動

学校・園の取り組みを紹介します⑲

問社会教育課　☎(582)1142　FAX(581)2733

小津小学校

読書大好き小津っ子！その秘密は

小津小学校では、毎年1年生に本袋をプレゼントしています。読みかけの本を入れて机の横に掛け、身近に本を置きながらちょっとの時間に読む〝すきま読書〟で読書量も増えています。また、本の楽しさを広げる〝読み聞かせ〟は「小津おはなし会」と「図書支援ボランティア」の方々が支えてくださっています。

小津っ子の読書好きは物語の世界への〝誘い人〟のおかげです。

そして、作品を通じてすてきなメッセージを送ってくださる今関信子先生は、小津学区在住。図書室に先生のコーナーを作りました。先生の人柄とすばらしい作品に触れて、新たに本の魅力を発見してほしいと思います。

速野小学校

家読週間の取り組みと「ページ」の発行

本校では、毎月一週間「家読週間」を設定し、親子で一緒に本を読んだり、家庭で読書をする時間をとったりして、家族で本に親しむ機会を設けています。それに合わせて、昨年度の9月から図書だより「ページ」を発行し全校児童に配布しています。教職員のおすすめの本を紹介し、「ページ」で掲載した本は、子どもたちが直接触れて本に興味を持つきっかけになってくれるよう、学校図書館に展示しています。保護者からは、「親子で楽しんで読めた」「子どもが絵本を読んでくれた」などの声をいただいています。これからもこの取り組みを続けることで、「本が好き！」という子どもたちがもっと増えることを願っています。

佐川美術館
アートコラム⑩

どんな絵の具で描かれているのだろう？

公益財団法人佐川美術館
学芸員：藤井 康憲

日本画とは日本の伝統的な画材や技法によって描かれた絵画のことで、絹や和紙に天然の鉱石を原料とする岩絵具で描かれています。

岩絵具は原料となる色の着いた鉱石を砕いて粉状にし、動物の骨や皮を煮出して作る膠というのりが混ぜられた絵の具です。この膠が粉末状の鉱石と、和紙や絹とを付着させる接着剤のような役割を果たします。では、どのような鉱石が用いられているのでしょう。さまざまな鉱石が用いられますが、水晶などの宝石も実は岩絵具の原料となります。ラピスラズリという宝石はウルトラマリンブルーという色鮮やかな青色絵具の原料となり、古くからヨーロッパで重宝されてきました。画家・フェルメールのブルーと言えばイメージできる方も多いのではないでしょうか。また、緑色の絵具の材料となるマラカイトは表面に縞模様があり、その模様が孔雀の羽に似ていることから「孔雀石」という名が付けられています。

佐川美術館では、シルクロードの風景や仏教をテーマに世界各地を描き続けた平山郁夫の作品３２０点余りを所蔵しており、色彩豊かな日本画の世界を観賞いただけます。平山郁夫は岩絵具のほかにも淡い水彩絵具で描いた作品も数多く手掛けました。当館では岩絵具で描かれた「本画」作品と水彩絵具で描かれた「素描」作品を同時に展示して、二つの異なる絵具が持つ風合いを見比べながら楽しんでいただけます。